

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	富士宮市立あすなろ園	公表日	R 8 年 3 月 1 2 日			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制だが、こどもの状況や場面に 応じ、担任以外の職員との連携を常に心掛けて いる。 ・各部屋に呼び出しボタンがあり、状況に応 じてフォローに入る体制ができています。 ・必要な支援が行き届くように職員を加配し ている。(フリー保育士、サポート対応保育 士) 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時、災害時により安全に避難するよう に工夫していきたい。 ・より専門的な個別対応も出来るように、人 手の確保を工夫していきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け評価表に加え、行事ごとに保護 者にアンケートを行い、改善につなげている。 	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度は静岡県東部発達障害者支援セン ターのコンサルティングを利用して助言をいた だいた。 	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修だけではなく、療育支援センター ごあらと合同で係内研修を行い、職員が学び 合う時間を確保している。 ・外部研修の情報を集め、積極的に参加がで きるようにしている。 ・令和7年度は静岡県東部発達障害者支援セン ターのコンサルティングを利用して資質向上 に活かした。 	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画を確認したり、様々な職員と 情報共有する時間をもっと確保したい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・週に1回わくわくタイム(集会形式)を行 い、園全体で楽しめるようにした。 	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・一人につき、月に2回療育時間後に個別療育 時間ある。 	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			・療育後も事務など業務が多岐に渡り、話し合いが出来ない日があるので、木曜日の療育会議日にまとめて行っている。毎日の打ち合わせ時間の確保に課題を感じる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・移行に向けての個別交流を行っている	・地域の園への移行に難しさも感じるが、丁寧な情報共有や連携の在り方を工夫してインクルージョンの推進に努めている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・書面だけではなく、対面で引継ぎを行い情報共有と相互理解に努めている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		・令和7年度は静岡県東部発達障害者支援センターのコンサルティングを受け質の向上に努めた。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		・児発管だけではなく、様々な職員が参加して学びを広げている。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			・より多くの園に受け入れてもらい交流の場や機会が広がるよう情報発信などの工夫が必要であると感じている
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			・保護者の状況により配慮を必要とする部分は、より丁寧に答えていくことが求められていると感じている。
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・『にこにこタイム』として親子療育時間を週1回毎週木曜日に実施している。(R6年度より) ・療育支援センターこあらの保護者向け講演会を開催するので呼びかけを行うと共にちらしにて研修の情報提供を行う。	・保護者の要望をくみ取り、より必要に応じた情報提供ができるよう努めていく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・にこにこタイム(親子療育教室)の後や個別療育の後にも話をしている。 ・保護者が送迎しているので、日々相談等に応じている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・学年別懇談会、父親懇談会など、保護者の要望を聞きながら設定し、交流する機会を設けている。	・きょうだい児の交流はコロナ禍で中止していたが、運動会にきょうだいが見られ、きょうだい交流の再開検討の必要性を感じる。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○				
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○				

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	・市の主催する作品展に園児の作品を掲示したり、園の紹介を掲示している。	・地域に開かれた事業所となるように、工夫して情報発信をしていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	・毎月の地震火災避難訓練に加え、南海トラフ地震臨時情報や富士山噴火・土砂災害警戒情報を想定した発令を受け、臨時の引き渡し訓練を実施するなど、さまざまな場面を想定した訓練を実施し、気づいた課題を検討するよう努めている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	・医師の指示書のもと個に応じたアレルギー対応マニュアルを作成し、月1回保護者、担任、調理師でアレルギー会議を行い、献立の確認をしている。 ・毎朝のミーティングでその日のアレルギー食の共有を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	・毎月避難訓練の他にも救命講習、感染症に関する研修、不審者対策訓練などを行い安全管理に努めている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	・年度初めに災害時のマニュアルを配布している。	・保護者会などで話す機会を設定し、より安全に対応できるように工夫していきたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	・朝のミーティングで全体共有すると共に、記録に残している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	・研修会の他、虐待防止マニュアルの読み合わせ、虐待防止チェックリストの実施など、情報を共有している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		